

### 第3章 医師・歯科医師・薬剤師統計

#### 1 医師

令和2年末現在の医師の届出数は2,108人で、前回調査時の平成30年から58人増加した。業務の種類別にみると、医療施設の従事者は1,994人で前回に比べて47人増加し、総数の94.6%を占めた。介護老人保健施設の従事者は30人で前回と比べ1人減、医療施設・介護老人保健施設以外の従事者は59人で前回に比べ3人増、その他の者は21人で前回に比べ5人増であった（表4-1）。

表4-1 業務の種類別にみた医師数及び構成割合

	医 師 数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	令和2年	平成30年		令和2年	平成30年
総 数	2,108	2,050	58	100.0	100.0
医療施設の従事者	1,994	1,947	47	94.6	95.0
病院の従事者	1,403	1,330	73	66.6	64.9
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	28	26	2	1.3	1.3
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	1,020	935	85	48.4	45.6
医育機関附属の病院の勤務者	355	369	△ 14	16.8	18.0
臨床系の教官又は教員	189	200	△ 11	9.0	9.8
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	166	169	△ 3	7.9	8.2
診療所の従事者	591	617	△ 26	28.0	30.1
診療所の開設者又は法人の代表者	434	442	△ 8	20.6	21.6
診療所の勤務者	157	175	△ 18	7.4	8.5
介護老人保健施設の従事者	30	31	△ 1	1.4	1.5
介護老人保健施設の開設者又は法人の代表者	4	4	0	0.2	0.2
介護老人保健施設の勤務者	26	27	△ 1	1.2	1.3
介護医療院の従事者	4	-	4	0.2	-
介護医療院の開設者又は法人の代表者	-	-	0	-	-
介護医療院の勤務者	4	-	4	0.2	-
医療施設・老人保健施設・医療院以外の従事者	59	56	3	2.8	2.7
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	24	23	1	1.1	1.1
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	5	5	0	0.2	0.2
行政機関又は保健衛生施設の従事者	30	28	2	1.4	1.4
行政機関の従事者	14	14	0	0.7	0.7
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	11	11	0	0.5	0.5
産業医	5	3	2	0.2	0.1
その他の者	21	16	5	1.0	0.8
その他の業務の従事者	5	1	4	0.2	-
無職の者	16	15	1	0.8	0.7
不 詳	-	-	-	-	-

主たる診療科名別にみた医療施設従事医師数は、内科が最も多く420人で21.1%を占める。ついで整形外科が128人で6.4%、精神科が121人で6.1%、臨床研修医が118人で5.9%、

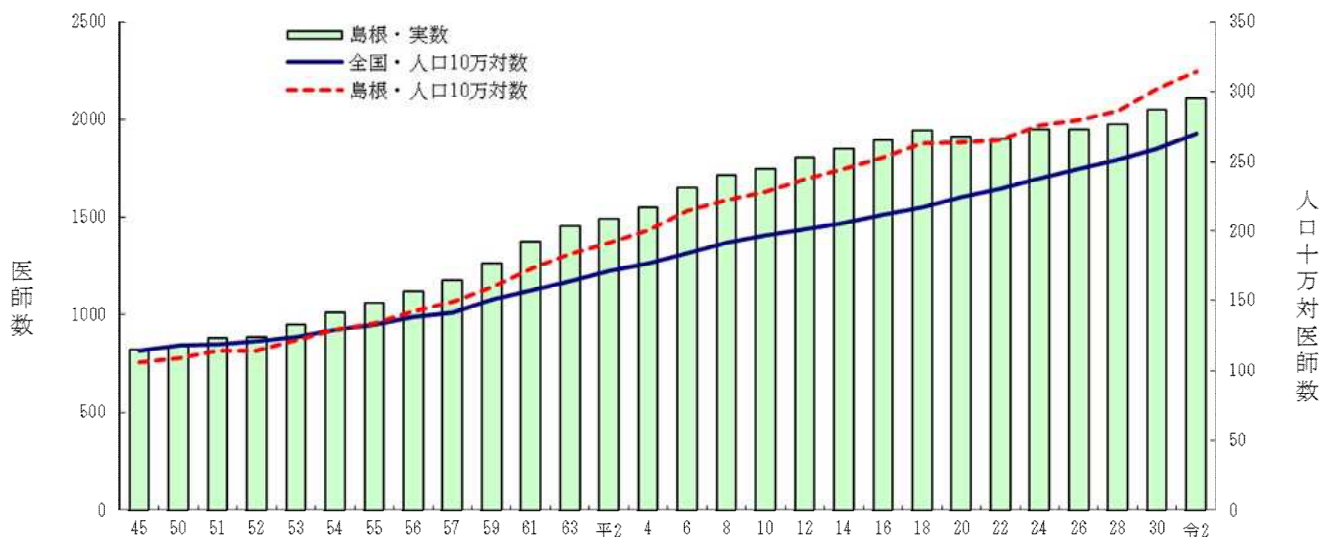
消化器内科（胃腸内科）が104人で5.2%を占める。平成30年と比較すると救急科や消化器外科（胃腸外科）などが増加した。一方、最も減少したのは外科で13人減、次いで臨床研修医の5人減となっている（表4-2）。

表4-2 診療科（主たる）名別にみた医療施設従事医師数

	令和2年		平成30年		増減数 (人)
	人数	構成割合	人数	構成割合	
医師数	1,994	100.0	1,947	100.0	47
内科	420	21.1	411	21.1	9
呼吸器内科	40	2.0	41	2.1	△ 1
循環器内科	66	3.3	67	3.4	△ 1
消化器内科（胃腸内科）	104	5.2	107	5.5	△ 3
腎臓内科	18	0.9	20	1.0	△ 2
神経内科	49	2.5	47	2.4	2
糖尿病内科（代謝内科）	39	2.0	33	1.7	6
血液内科	19	1.0	21	1.1	△ 2
皮膚科	50	2.5	48	2.5	2
アレルギー科	-	-	-	-	-
リウマチ科	8	0.4	7	0.4	1
感染症内科	1	0.1	1	0.1	0
小児科	97	4.9	97	5.0	0
精神科	121	6.1	121	6.2	0
心療内科	2	0.1	1	0.1	1
外科	78	3.9	91	4.7	△ 13
呼吸器外科	11	0.6	13	0.7	△ 2
心臓血管外科	20	1.0	18	0.9	2
乳腺外科	12	0.6	15	0.8	△ 3
気管食道外科	-	-	-	-	-
消化器外科（胃腸外科）	24	1.2	10	0.5	14
泌尿器科	49	2.5	48	2.5	1
肛門外科	-	-	-	-	-
脳神経外科	36	1.8	37	1.9	△ 1
整形外科	128	6.4	131	6.7	△ 3
形成外科	17	0.9	14	0.7	3
美容外科	-	-	1	0.1	△ 1
眼科	73	3.7	68	3.5	5
耳鼻いんこう科	44	2.2	44	2.3	0
小児外科	4	0.2	6	0.3	△ 2
産婦人科	70	3.5	63	3.2	7
産科	1	0.1	-	-	1
婦人科	8	0.4	7	0.4	1
リハビリテーション科	28	1.4	31	1.6	△ 3
放射線科	50	2.5	49	2.5	1
麻酔科	80	4.0	83	4.3	△ 3
病理診断科	16	0.8	13	0.7	3
臨床検査科	2	0.1	3	0.2	△ 1
救急科	35	1.8	19	1.0	16
臨床研修医	118	5.9	123	6.3	△ 5
全科	5	0.3	5	0.3	0
その他	49	2.5	31	1.6	18
不詳	2	0.1	2	0.1	0

令和2年の人口10万対医師数は314.2人で、前回の301.5人に比べて12.7人上昇した。人口10万対医師数は年々上昇傾向にあり、昭和54年までは全国を下回っていたが、その後は上回って推移している（図4-1）。

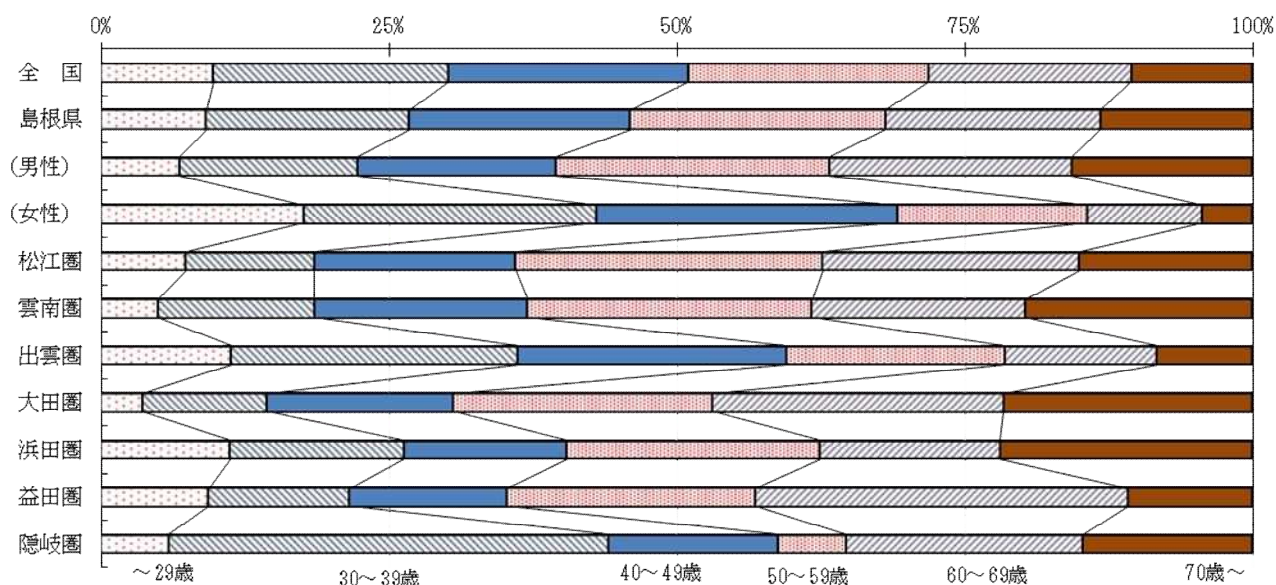
図4-1 医師数及び人口10万対医師数の年次推移



医師を年齢階級別に見ると、県全体では50歳代が22.2%、40歳代が19.2%と半数近くを占めている。全国の割合と比べると、20歳代から40歳代までの割合が低くなっている。男女別に見ると、男性は50歳代が最も多く23.7%で、ついで60歳代が21.1%を占める。女性は40歳代が最も多く26.1%で、ついで30歳代が25.4%を占める。

2次医療圏別に見ると、出雲圏及び隠岐圏で20歳代及び30歳代の割合が高い。大田圏では50歳以上が69.3%を占める（図4-2）。

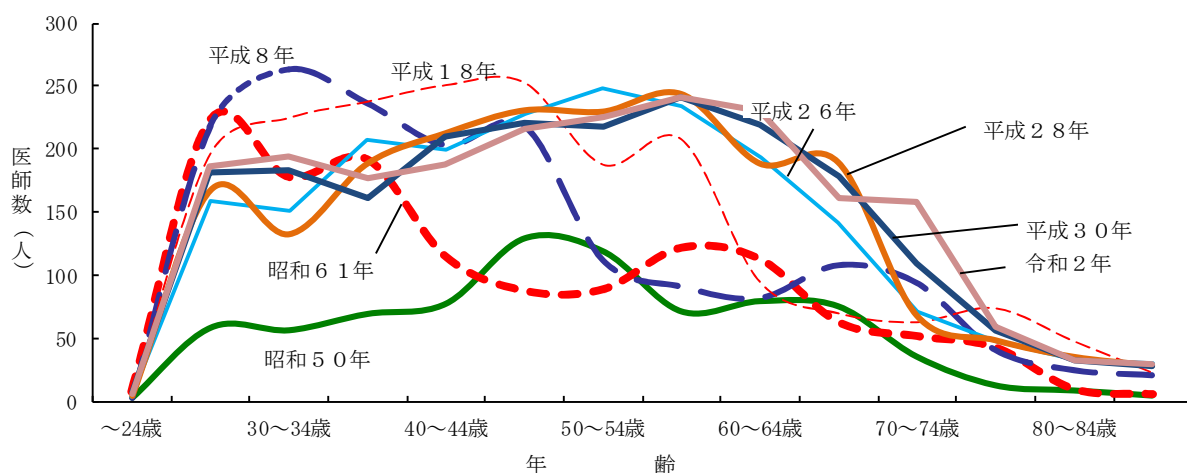
図4-2 医師の年齢別割合



医師の年齢構成の年次推移を10年ごとにみると、昭和50年は45~49歳、昭和61年

は25～29歳、平成8年は30～34歳、平成18年は45～49歳が最も多い年齢階級となっている。令和2年をみると最も多い年齢階級は55～59歳となっている（図4-3）。

図4-3 医師の年齢構成の年次推移



## 2 歯科医師

表4-3 業務の種類別にみた歯科医師数及び構成割合

	歯科医師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	令和2年	平成30年		令和2年	平成30年
総数	409	401	8	100.0	100.0
医療施設の従事者	390	382	8	95.4	95.3
病院の従事者	40	35	5	9.8	8.7
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	-	-	-	-	-
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	28	27	1	6.8	6.7
医育機関附属の病院の勤務者	12	8	4	2.9	2.0
臨床系の教官又は教員	3	2	1	0.7	0.5
臨床系の教官又は教員以外の従事者（大学院生含む）	9	6	3	2.2	1.5
診療所の従事者	350	347	3	85.6	86.5
診療所の開設者又は法人の代表者	236	242	△6	57.7	60.3
診療所の勤務者	114	105	9	27.9	26.2
介護老人保健施設の従事者	-	-	-	-	-
医療施設・老人保健施設以外の従事者	3	4	△1	0.7	1.0
医育機関の臨床系以外の勤務者（大学院生含む）	-	1	△1	-	0.2
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	-	1	△1	-	0.2
行政機関又は保健衛生施設の従事者	3	2	1	0.7	0.5
行政機関の従事者	3	2	1	0.7	0.5
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	-	-	-	-	-
その他の者	16	15	1	3.9	3.7
その他の業務の従事者	3	3	0	0.7	0.7
無職の者	13	12	1	3.2	3.0
不詳	-	-	-	-	-

令和2年末現在の届出歯科医師数は409人で、前回調査時の平成30年から8人増加した。業務の種類別にみると、ほとんどが医療施設の従事者で95.4%を占める。うち診療所の開設者又は法人の代表者が57.7%で、診療所の勤務者が27.9%である。平成30年と比べると、病院の従事者は5人増加（構成割合は1.1%増加）、診療所の従事者は3人増加（構成割合は0.9%減少）した（表4-3）。

令和2年の人口10万対歯科医師数は61.0人で平成30年の59.0人に比べて2人増加した。年次推移をみると、平成30年は一時減少に転じたものの、令和2年は再び増加に転じ、おおむね緩やかな増加傾向を維持している。全国平均（85.2人）と比較するとかなり低くなっている（図4-4）。

図4-4 歯科医師数及び人口10万対歯科医師数の年次推移

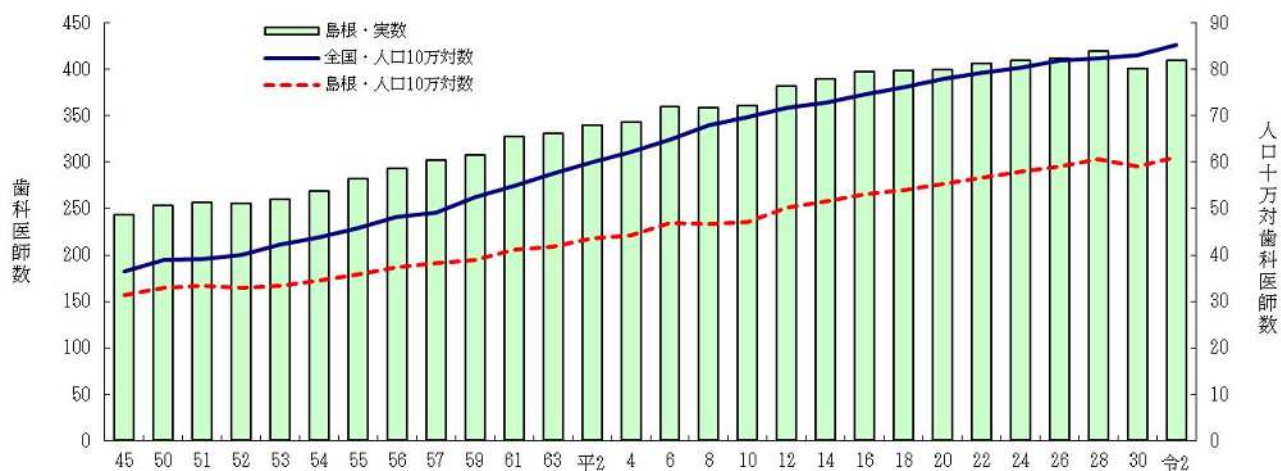
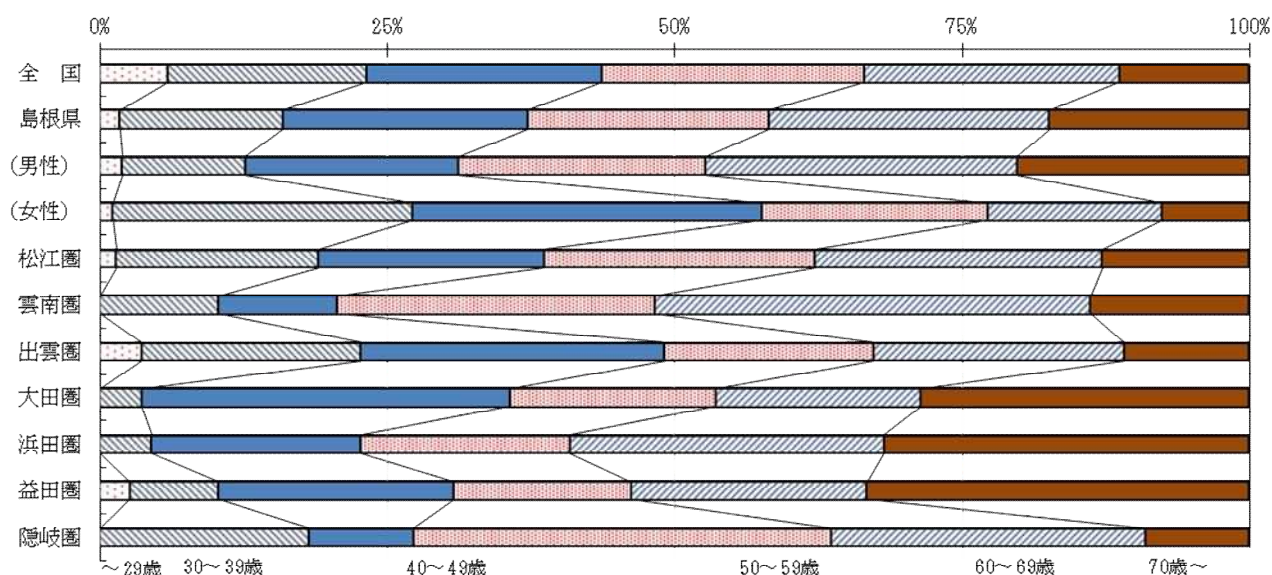


図4-5 歯科医師の年齢別割合



歯科医師の年齢別割合をみると、全国に比べて20歳～50歳代の占める割合が低く、60歳以上の占める割合が高くなっている。男女別に比べると、女性は20歳～40歳代が57.6%を占めており、男性は50歳以上が68.8%を占めている。

2次医療圏別にみると、雲南圏、大田圏、浜田圏、益田圏では60歳以上が4割を超えて

いる。(図 4-5)。

### 3 薬剤師

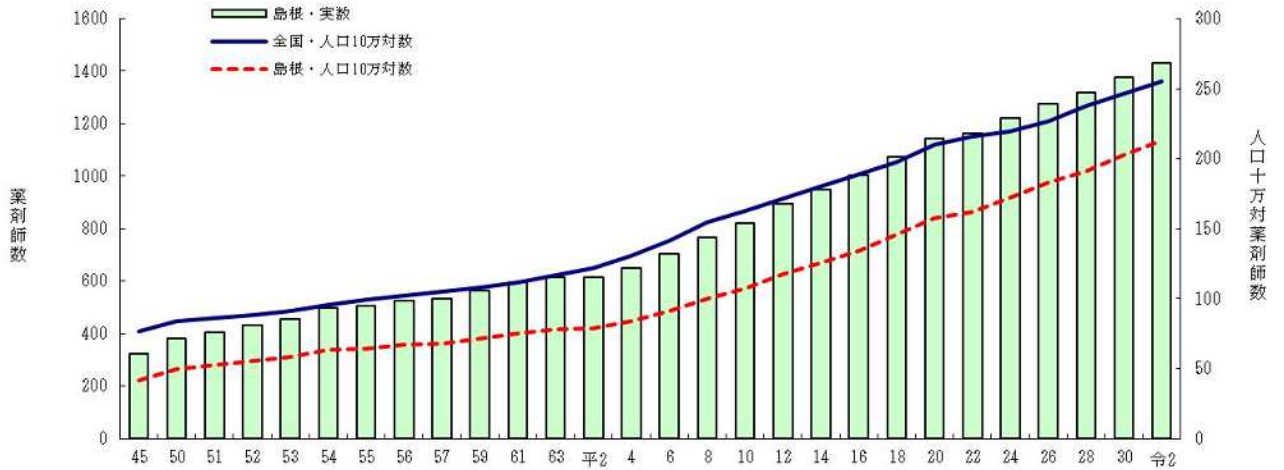
令和 2 年末現在の届出薬剤師数は 1,429 人であり、平成 30 年から 52 人増加した。業務の種類別にみると、薬局の従事者が 885 人（構成割合は 61.9%）で、平成 30 年から 24 人増加した。ついで、病院・診療所の従事者が 338 人（構成割合は 23.7%）となっており、平成 30 年から 17 人増加している。薬局及び病院・診療所の従事者は全体の 85.6%を占めた（表 4-4）。

表 4-4 業務の種類別にみた薬剤師数及び構成割合

	薬剤師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	令和2年	平成30年		令和2年	平成30年
総 数	1,429	1,377	52	100.0	100.0
薬局の従事者	885	861	24	61.9	62.5
薬局の開設者又は法人の代表者	117	113	4	8.2	8.2
薬局の勤務者	768	748	20	53.7	54.3
病院・診療所の従事者	338	321	17	23.7	23.3
病院・診療所で調剤・病棟業務に従事する者	324	309	15	22.7	22.4
病院・診療所でその他の業務に従事する者	14	12	2	1.0	0.9
介護保険施設の従事者	15	11	4	1.0	0.8
介護老人保健施設の勤務者	11	11	0	0.8	0.8
介護医療院の勤務者	4	-	4	0.3	-
大学の従事者	13	10	3	0.9	0.7
大学の勤務者（研究・教育）	12	10	2	0.8	0.7
大学院生又は研究生	1	-	1	0.1	-
医薬品関係企業の従事者	63	77	△ 14	4.4	5.6
医薬品	19	24	△ 5	1.3	1.7
医薬品	18	26	△ 8	1.3	1.9
医薬品販売業（卸売販売業）に従事する者	26	27	△ 1	1.8	2.0
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	28	23	5	2.0	1.7
その他の者	87	74	13	6.1	5.4
その他の業務の従事者	16	16	0	1.1	1.2
無職の者	71	58	13	5.0	4.2
不詳	-	-	-	-	-

令和 2 年の人口 10 万対薬剤師数は 213.0 人で、平成 30 年から 10.5 人増加した。年次推移をみると年々上昇しており、令和 2 年は 213 人と平成 30 年に引き続き 200 人を上回ったものの、全国平均（255.2 人）と比べるとかなり低くなっている（図 4-6）。

図 4-6 人口 10 万対薬剤師数の年次推移



薬剤師の年齢別割合をみると、最も多いのは30歳～39歳の27.4%、ついで40歳～49歳の21.2%、50歳～59歳ならびに60歳～69歳の14.7%となっている。

2次医療圏別にみると、出雲圏は20歳～30歳代で49.3%を占めており、隠岐圏では60歳以上の占める割合が41.7%となっている（図4-7）。

図 4-7 薬剤師の年齢別割合

